

平成23年度川崎区区民会議第3回子ども部会

日 時：平成23年7月26日（月）13時30分～15時30分

場 所：川崎区役所7階第1会議室

出席者(敬称略)

(1) 委員 6人

朴栄子、石渡勝朗、小泉忠之、鈴木真、深澤香織、宮崎とみ子

1. 開会

(事務局)

<会議の成立、会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の遵守事項、会議の記録、広報としての写真撮影を説明、出席者の紹介>

(1) 自由に思いっきり遊べる場づくりについて

(朴部会長)

まずは、自由に思いっきり遊べる場づくりについて、何か動きがあったということなので、事務局より報告をお願いします。

(金子課長)

地域教育会議から川崎区内に冒険遊び場、川崎市子ども夢パークをつくってほしいという請願が出されました。区民会議の位置づけとして請願が出された事項については、区民会議では取り上げることができません。区民会議と市議会の位置づけとして、市議会は、全市に関わる視点でのもの、区民会議は地域な身近な課題について審議するものという条例の解釈があるので、請願に出されると全市の視点で検討されることになる。このため、自由に思いっきり遊べる場づくりについては、少し様子を見るような形が望ましいと思うがいかがでしょうか。

(朴部会長)

今後、どういうふうに進んでいくかわからないので、様子を見る形でいかがでしょうか。ただ、議会で否決されると、今後できなくなると聞いています。

(石渡委員)

否決されると今後できなくなるとのことだが、区民会議で後押しするという形でいかがですか。

(上野副区長)

議会で否決されたものに対しては、すぐには区民会議では検討できないが、少し時間をおいてやはり地域には必要であるとなれば、改めて区民会議と取り上げられると思います。ただ、請願の後押しとなると区民会議の趣旨とはずれてくるのでできません。このため課長から言われるように少し置くということで、いかがでしょうか。情報は、部会の方にどんどん出していきたいと思います。

(石渡委員)

了解しました。

(朴部会長)

それでは、地域の人と子育て中の親が会えるまちづくりということで、何か提案や意見があればどうぞ。

(宮崎委員)

私は、前回の会議で町内会・自治会の方に投げかけるということでしたが、まだできていません。あと民生委員のサロンのなところは、かなり前向きな感じがしています。こども文化センターの方では、子育て支援的なところがあるので、事業の計画がされていると思います。昔からあった既存のところは、本当に浸透しています。そこでは、ケアする仕組みもあるようです。地域にそういう場所がほしいというニーズがあるので、他のこども文化センターにも勧められそうです。

(深澤委員)

私は、子どもとは関係ない形で浅田こども文化センターをつかっていますが、同じ時間帯に子育ての親たちや高齢者の団体が使っています。しかし、交流をしているわけではありません。そこで、交流があればいろいろできるのではないかと思います。最近、こども文化センターが子育て支援センターとなってきているので、こども文化センターで子育て支援に来ている親が地域の人たちと交流を持つ場になるのではないのでしょうか。

(宮崎委員)

こども文化センターの中で子育て支援センターが週に3回開催していて、そこで交流ができればという提案であるが、行政としてみれば、事業として行っているの、日常的にそこで交流を行うことは難しいと思います。しかし、年数回のイベントの中で、他の団体と交流しましょうということなら可能だと思います。

(深澤委員)

各団体の方も子育て中の親や子どもに対して一緒にやりませんかと言ってくれる団体があれば、交流が進むのではないかと思います。

(宮崎委員)

その施設の年間計画の中に組み込まれているかどうか重要だと思う。突発的にやろうというのは難しいと思います。年何回かの計画として盛り込み、毎回毎回というわけにはいかないと思います。

(上野副区長)

地域子育て支援センターについては、厚生労働省の所管の国庫補助事業であって、かつてセンター型、保育園型の地域子育て支援センターがあったが、平成19年度から児童館型ということで川崎市も導入した。それをこども文化センターで実施している。その前から、センター型、保育園型をやっていたので、すべてのこども文化センターでやっているのではなく、これらが無い地域のこども文化センターで実施している。

それと、こども文化センターは、指定管理者で運営しているが、地域子育て支援センターは、委託業務で行っている。こども文化センターの指定管理者の法人と地域子育てセンターの法人が同じところがあれば、違うところもあります。

地域子育てセンターの対象として、子育て中の親だけでなく将来、親になる中高生へ生命の大切さなどを学んでもらう事業もやっています。さきほどいただいたような意見については、こども本部に伝えたり、区役所の子育て支援担当に伝えることはできます。

(朴部会長)

保健福祉センターと社協、こども文化センターは、田島地区、大師地区、中央地区の3つに分かれて子育てグループ間の交流をしましょうということがあって、最近の子育てグループ同士の交流会がうまくいかない部分があって、形を変えつつあるんですね。その中で今年は田島地区では、個々のグループの活動を体験をしてもらう企画をやろうということになっていて、それが一番近いのかなと思いました。そんな活動をこども文化センターでやれば、良いのではないかと。こども文化センターは、中学校区にあるので、いろいろな地域の人と出会えるのではないかと思います。

あといこいの家とこども文化センターが、同じ建物の中にあることがあり、同じ建物の中にあるところは、1年に1回いこいの家の方で料理教室をやっている。たとえば、いろいろな1年に1回以上世代間の企画を入れてもらえないか行ってもらうことはどうでしょうか。

(上野副区長)

十分に可能だと思います。所管のこども本部と健康福祉局に言うことはできる。年度計画づくりは、前年の夏あたりにつくるので、早くいってもらえれば24年度に間に合うと思います。

(朴部会長)

それでは、地域にある町内会館、地域の縁側、こども文化センター、いこいの家で年に1回以上、世代間交流に関わる事業をやってくださいということをやったらどうか。

(宮崎委員)

1年に1回こども文化センターまつりが行われていて、そこでは世代間交流が行われています。それとは別に事業化すると提言した方がインパクトがあると思います。もっと密接に関われる内容とか、提言させていただいた方が良いと思います。

(朴委員長)

子育て中の親が地域で顔見知りをつくるような企画をやってほしいと提案する。あとほほえみ体操みたいな、高齢者も参加できるような提案、地域子育てセンターは、子育て中でないと入りづらいので、それが解消できるような企画をやってもらえるように提言したらどうでしょうか。施設同士が繋いでいくような企画が必要ですね。

(小泉委員)

民生委員は、他の問題がいっぱいあって世代間交流にかかわる活動はできていないと思います。夏のラジオ体操がありますが、それを積極的にPRしていますから、そういうのを活用してもらえれば良いと思います。また、なかなかこども文化センターの運営には関われないのが、民生委員の力不足だと思います。今後は、こども文化センターの運営にも民生委員がバックアップしていくようなになれば良いと思います。今は、子どもに関わることはできていません。

(宮崎委員)

地域の団体にやってくださいねというだけでは、なかなか動きません。どこか核になる団体をつくらないと難しいと思う。担い手になる団体をつくるのが大事だと思います。やはり長いスパンを考えながらきっかけをつくって先陣を切ることが重要だと思います。こども文化センターが一つの核になってひっぱられるような仕組みが必要だと思います。

(朴部会長)

地域の中にはいろいろな年代の方がいるのに、すべてが年代別に分かれている。これを地域でつなぐような仕組みが必要だと思います。中学校区に一つずつこども文化センター、子

育て支援センター、地域包括センター、いこいの家があるので、中学校区を単位に民生委員や町内会などでどんなことができそうか話し合うような環境になれば良いですが、それをどこにお願いしていけば良いか。

(上野副区長)

そういう意味で、町内会への加入率が低くなっている傾向にあることや子育て世代と高齢者世代をどう結び付けるかということが課題に挙がっています。地域振興課の中で働きかけをしようと思っているのが、独り暮らし高齢者のための会食サービスという事業があるのですが、それは社協を通して各団体に補助金を出しているのですが、その場に子育て世代を呼ぼうという企画があります。会食の時に子育て世代の親や中高生に来てもらい交流するのも良いのではないかとということで話が進んでいます。そういったところの受け入れ側がOKしてくれないといけないので、社協に話をしてみようとなっています。まだ具体的には動き出していません。そういうことが話に出ている状況で区民会議でも世代間交流ということで審議されているので進めやすいと思います。たとえば事例を挙げながら言っていただくと区民会議も後押ししているのでやりやすい。地域の中で資源も違いますので、いろいろなやり方があると思いますが、具体的な事例があるとお示ししやすいです。

(宮崎委員)

私もそれに関わっておりまして、今は高齢者が食べやすい料理なのですが、小さいお子さんが食べられる料理も入れていくなど、内容も見直していかないと、この会食はうまくいかないと思います。取り組み自体は良いことだと思います。

(金子課長)

一度にやるとたいへんなので、親子はお茶だけでも良いかもしれませんね。

(上野副区長)

嚥下障害があるかもしれないので、食べやすさの配慮などが必要です。このため、お茶だけでも良いかもしれませんね。

(朴部会長)

それでは、そういう出会いの場を生み出すようなプログラムを年1回以上やっていくよいをお願いしていく。それについて他のところでやっている具体的な事例を出していくことでよろしいでしょうか。

(鈴木委員)

こういうのは、地域支援事業に値すると思います。元気なお年寄りと親子の交流では、地域支援事業に値すると思います。介護保険制度の中で2%くらいの予算は地域支援事業の予算となっているはずです。

(小泉委員)

小田地区の民生委員協会の中の団体でもいろいろですがやっています。小田地区でも親子を呼んで交流をやってみませんかということをやってみます。1つでも2つでもできれば良いと思います。社協からは、交流のための費用を一部補助しているのはあります。

(上野副区長)

鈴木委員が言われるように介護保険の補助金ですが補助金交付要綱でやられていると思いますが、対象が高齢者だけでなく親子も対象になるのであれば、もっと広がりがあると思います。

(朴部会長)

世代間を繋げるためにプログラムとして会食サービスの中に親子が入るということに関係部署に話をすればよろしいのでしょうか。

(上野副区長)

関連部署の方へ言っていくのと地域に言っていくのと両方やっていく必要があると思います。地域振興課の方では、市と区の社協に区民会議では、世代間交流について審議していますと言っております。区民会議では、それと併せて地域に働きかけるなど、いろいろな方向から言っていくと効果的です。

(朴部会長)

では、方向性としては、いろいろなところに多世代が交流できる企画を1年に1回以上やってくださいと言っていく、私たちは事例集めをやっていくといういことにしたいと思います。

## (2) こころの居場所づくり・不登校支援について

(朴部会長)

まずは不登校について勉強しようということで、子どもサポート旭町と意見交換しようということになっていますが、いかがでしょうか。旭町だけで良いのかという話もありますし。あと臨港中学校にもそのような施設がありますし。

不登校の実態については、こども支援室から話を聞きましたが、それはほんの一部であって、地域ではどんなことを考えているか、学校等ではどんなことを考えているのかといろいろなところから川崎区の子どもの現状を聞いて学ぶというところだと思っていますが。

(金子課長)

区の教育担当とは、何度も話していますが、不登校のことになると300人いたら300通りの理由があるそうです。このためひとくくりで何かするのは無理です、と言われました。では、教育委員会としては、不登校にならない予防に力を入れるということでした。指導要領もそのように変わっているということです。

(深澤委員)

不登校の子を学校に行かせるというのは、それなりの専門家が対応しないと解決しない。それではこの区民会議では、この資料にある不登校の存在を広く知ってもらおうというのは意味があると思います。私たちが知ることができたとしても、それが広がらないと意味がないと思います。私は、この審議を始めてからまわりにも不登校がたくさんいることを初めて知りました。でもまわりの他の人たちはまだ知らない状態です。これだけ不登校の子がいて悩んでいる親がいて、でもそれが知られていないんですね。

(宮崎委員)

不登校の子の理由は千差万別であるのですが、これに取り組むのはなかなか難しいと思います。今は、専門家の先生が学校に入り込んでいて、いろいろ対応しているのですが、なかなかうまくいかない部分もあります。

(朴部会長)

学校に行かせることを考えると難しいとおもうが、学校に行かなくても良い、そのままの状況でいいんだよということを川崎区の中で共有できると、悩んでいる人も少なくなると思います。学校に行かれないということでも、その子が生き生きできる環境があれば良い。学校に行かない子どもたちのことをもっと一緒にオープンで考える場があれば良いのかなと思います。子どもたちは行く場所がなくて困っているので、そこが見つかれば良いんですね。そういう相談の場に行ければ良いと思うが、なかなか行けない状況です。

先日、フリースペースたまりばの20周年に行ってきたが、そこに来ている子どもたちは、個性的な部分もあるが本当に生き生きしていて良いと思いました。このため、学校に行かない選択もあって良いんだということを思いましたが、でも学校に行けないということについてものすごく既成概念があって、それをなんとかしないといけないと思います。学校も行かない選択もあるんだよということを川崎区の人たちに知ってもらい、話せる場があれば良いと思います。

(上野副区長)

不登校と言っても幅が広すぎてどこに絞って支援していくのか。本来は学校へ行っているべき子どもたちについては、日本人であるし、対象になっていない子どもたち、障がいがある子どもたち、どこに焦点を絞るのか審議されたらいかがでしょうか。

(石渡委員)

この議論を進めても堂々巡りになると思います。たとえばフリースペースえんのようなところは、私たちにはできないですね。このため、私たち区民会議で課題にすることは、さまざまある不登校のことを区民が知ることが重要だと思います。このため、子どもサポート旭町にまず行って、ヒアリングを行う。あと臨港中学校、区の教育担当に話を聞くということからはじめることが必要だと思います。

私ごとですが、社会を明るくする運動をやっているのですが、そこでもこういうことを知ってもらえる機会を設けてもらいたいと思っています。その他のところでもこのような機会を設けてもらうような働きかけたらどうでしょうか。温度差はあると思いますが、そういうのを広げていくことが必要だと思います。そして最後にどう支えていくかということであるが、これは先の話なので、長い目で取り組んでいく必要があると思います。

(朴部会長)

そういうことで、子どもサポート旭町にヒアリングへ行くということとゆうゆうひろばの現状とか子ども支援室の方に話していただく。そして不登校の理由を知る。学校はどうしているのか、実態はどうなっているのか知る。そうすれば地域でどうすれば良いのか考えられる。

(金子課長)

そうであれば事前に聞きたいことをまとめておいた方がよいかと思います。この場で考えると時間的に厳しいので時間を置きますか。

(朴部会長)

私は、どんなところから質問してよいかわからない。現状どうなっているのか。

(金子課長)

そういうところから質問されてよいと思います。

(小泉委員)

民生委員を長くやっているが、不登校問題が一番難しく、サポートといっても何をやっていったら良いのかわからない。



(上野副区長)

昔は、痴呆の高齢者も隠す傾向にあった。不登校も同じで、だけどそういうのもあるんだ、そういうことを知ることによって相談しても良いんだということを区民の方々が知って、近くで悩んでいる人がいたら声掛けをしていけるような環境になれば良いということですね。

(金子課長)

質問の期限を決めさせてもらって、それを区役所で集約させていただくことでどうか。

(上野副区長)

8月19日まででいかがか。

(朴部会長)

では、質問を8月19日までに区役所へ提出してください。

### (3) 世代間交流する場の拡充について

(朴部会長)

資料2の方をみていただきたいと思うが、10月10日に川崎市体育館に約50名くらい集めてカローリングの体験会を行うが計画されています。体育指導委員の方が指導してくれます。交流がメインなので、それに併せて昔遊びをプレイルームで行います。

(宮崎委員)

昔遊びは、紙相撲と聞いています。

(朴部会長)

バルーンアートについては、田島地区のお住まいの方で地域で子どもたちにやっている方で、日にちが合えばやってくれるそうです。

カローリングの方は、体育指導委員の方がやってくれるので良いのだが、私たちが関わるのは昔遊びについては手伝う可能性があるかもしれない。区民会議の提案でもありますので、お時間がある方は出席してほしいと思います。

これとは別に宮崎委員が世代間交流について自分の地域でやられているので、これについてお話し願いたい。

(宮崎委員)

スポーツの世代間交流は、いろいろなところでやっていかないと効果がないと思います。小田地区民協で民生・児童委員の協力をいただけることになりました。あとは場所は小学校の体育館をお借りできることになりました。できれば月に2回程度、土曜日の午前中にやらしていただければということで調整しています。

この中で保険ということが引っ掛かったのだが、こども文化センターやわくわくの事業では、その中でできるのだが、不特定多数であって、このようなものは保険の対象にならないということでした。不特定多数の保険が必要です。区民会議の中から保険を対応してほしいのですが。

(上野副区長)

まずは、かわさき市民活動センターのボランティア保険で対応できるかどうか。それと区民会議で保険を掛けるとなると主催となる必要があるので、区民会議が主催になりえるのかどうか。

その他

(朴部会長)

区の花・木の選定について、宮崎委員が出席されているので報告してください。

(宮崎委員)

川崎区の花については、選定委員会でいくつか花を選定して、区の中できちんと決めたらという意見もありましたし、広く区民から公募したらどうかという意見がありました。今は、マンションにお住まいの方が多いので、あまり花を目にしなくなったという話になりました。そういうこともあり次回までに各委員がどのような花が良いか出し合うことになりました。木については、区内にある神社仏閣にちなんだ木が良いのではないかということになりました。

あと副区長からは、一度決めたらずっとその花ということではなく、四季で考えていっても良いのではないかというお話もありました。

皆さんも何かあったら出していただきたいと思います。

(鈴木委員)

坂本九は、川崎出身なので彼が好きな花などはどうでしょうか。あと大師のまわりに菊の栽培が多かったというので。

(宮崎委員)

キバナコスモスが強くて、翌年もしっかりと咲いてくれるということなので。

(小泉委員)

他区と重ならない方がいいですね。

(朴部会長)

それでは、何か良いものがありましたら区役所へ連絡してください。

※次回は9月14日（水）13時30分～開催することが確認された。

以上